

長迫遺跡・二石遺跡出土遺物について

西之表市教育委員会
種子島開発総合センター「鉄砲館」

1. 発表内容

西之表市教育委員会が発掘調査を行なった「長迫遺跡」・「二石遺跡」において、縄文時代早期前葉の石製品がまとめて出土した。日本列島で定型化した石製品の出現は縄文時代早期後半期であるが、いままでわからなかった縄文時代早期前葉の資料が種子島で出土したことは、九州縄文石製品の源流を考えるうえで、意義は大きい。

2. 発表事項

- ①国内最古級の縄文時代早期（約1万年前）の勾玉形石製装身品について 「二石遺跡出土」
- ②九州初、縄文時代早期（約1万年前）の石偶について 「長迫遺跡出土」
- ③縄文時代早期（約1万年前）の用途不明石製品について 「長迫遺跡出土」



■遺跡の概要

●遺跡の位置

「長迫遺跡」・「二石遺跡」は、種子島・西之表市安城地区の標高約56m～60mの海岸段丘上に位置し、遺跡の東側には太平洋を望む。遺跡は周囲と比べ、一段高い台地の先端部分に形成されている。

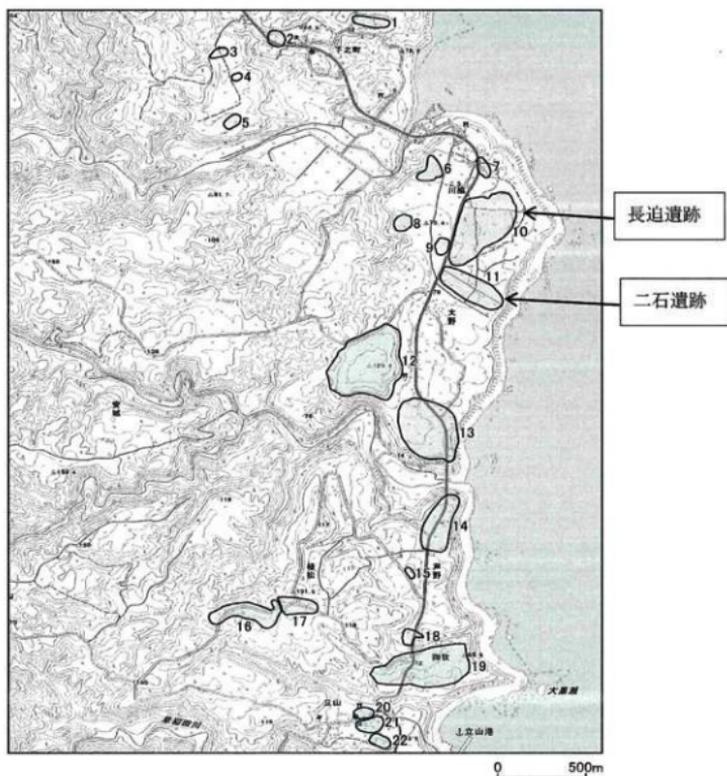
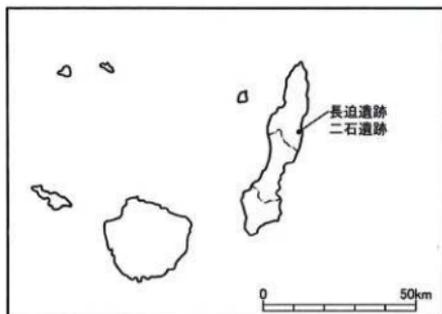
両遺跡周辺には、縄文時代草創期・早期の遺跡が多数確認され、これまでに「日守遺跡」・「三本松遺跡」・「歟ノ刃遺跡」・「東前平遺跡」などの発掘調査が行われている。

●「長迫遺跡」(ながさこ いせき)

| | |
|--------|------------------------------------------|
| 所在地 | 西之表市安城 |
| 調査起因 | 市営農道整備事業 |
| 調査主体者 | 西之表市教育委員会 |
| 調査期間 | 平成25年11月～平成26年3月 |
| 調査面積 | 約700㎡(幅約3m×長さ約240m) |
| 主な出土遺物 | 縄文時代早期土器片(吉田式等) 石器類(石鏃・磨石・磨石類・台石石皿類等) |
| 出土遺物数 | 約1,100点 |

●「二石遺跡」(ふたついし いせき)

| | |
|--------|---------------------------------------------|
| 所在地 | 西之表市安城 |
| 調査起因 | 市営農道整備事業 |
| 調査主体者 | 西之表市教育委員会 |
| 調査期間 | 平成26年9月～平成27年1月 |
| 調査面積 | 約1,000㎡(幅約3m×長さ約360m) |
| 主な出土遺物 | 縄文時代早期土器片(吉田式等) 石器類(石鏃・石斧・磨石・磨石類・台石石皿類等) |
| 出土遺物数 | 約860点 |
| 検出遺構 | 集石3基 |



第2図 長迫遺跡・二石遺跡周辺道跡図

■長迫遺跡・二石遺跡周辺遺跡地名表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時代 | 備考 |
|----|-------|-----------|------------|------------------------------|
| 1 | 仮屋園 | 西之表市安城平山 | 縄文時代早期 | 平成 10 年農政分布調査 |
| 2 | 通利山 | 西之表市安城上之町 | 縄文時代 | 平成 13 年県道分布調査 平成 15 年試掘調査 |
| 3 | 鬼ヶ野A | 西之表市安城上之町 | 縄文時代 | 平成 12 年確認調査 |
| 4 | 鬼ヶ野B | 西之表市安城上之町 | 縄文時代 | 平成 12 年確認調査 |
| 5 | 鬼ヶ野 | 西之表市安城上之町 | 縄文時代草創期・早期 | 平成 13 年発掘調査 出土品は県文化財に指定 |
| 6 | 日守C | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 6 年確認調査 |
| 7 | 三本松 | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 17・18 年発掘調査 |
| 8 | 日守B | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 6 年確認調査 |
| 9 | 日守 | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 7・8 年発掘調査 |
| 10 | 長迫 | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 26 年発掘調査 |
| 11 | 二石 | 西之表市安城川脇 | 縄文時代早期 | 平成 27 年発掘調査 |
| 12 | 鎌ノ刃 | 西之表市安城大野 | 縄文時代早期 | 平成 18 年発掘調査 |
| 13 | 東前平 | 西之表市安城大野 | 縄文時代早期 | 平成 15 年発掘調査 |
| 14 | 芦野 | 西之表市立山芦野 | 縄文時代早期 | 平成 16 年発掘調査 |
| 15 | 九郎三三門 | 西之表市立山芦野 | 縄文時代 | 平成 3 年農政分布調査 |
| 16 | 奥ノ仁田 | 西之表市立山植松 | 縄文時代草創期・早期 | 平成 5 年発掘調査 出土品は県文化財に指定 |
| 17 | 奥嵐 | 西之表市立山植松 | 縄文時代早期 | 平成 5 年発掘調査 |
| 18 | 尾呂ノ平 | 西之表市立山御牧 | 縄文時代 | 平成 13 年県道分布調査 |
| 19 | 長崎 | 西之表市立山御牧 | 縄文時代早期 | 平成 13 年県道分布調査 |
| 20 | 中園A | 西之表市立山 | 縄文時代早期 | 平成 23・24 年発掘調査 |
| 21 | 中園B | 西之表市立山 | 縄文時代早期・近世 | 平成 23・24 年発掘調査 |
| 22 | 下ノ平 | 西之表市立山 | 縄文時代 | 平成 13 年県道分布調査 |

■出土遺物の内容・価値

- ①国内最古級の縄文時代早期（約1万年前）の勾玉形石製装身品
（二石遺跡出土）

【内容】

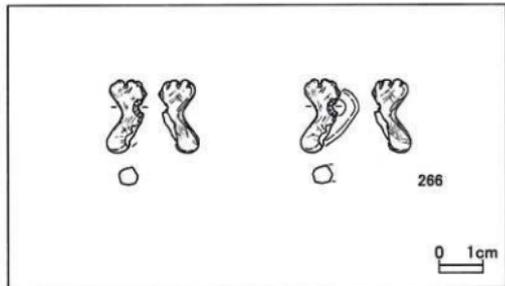
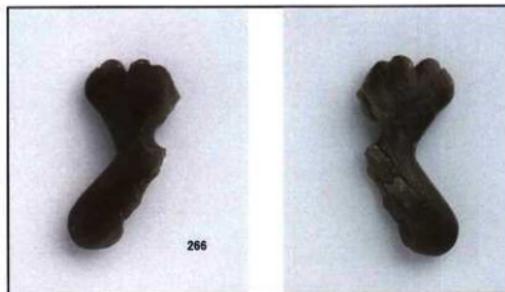
（1）特徴

- ア 全長1.7cm、幅0.95cm、厚さ0.4cm、重量0.5g、1点。
イ 頭部に3筋の切込みが施され、穿孔されている欠損品。
ウ 滑石製で、種子島には産しない石材である。

- （2）吉田式土器に伴って出土。他遺跡の吉田式土器の付着炭化物の年代測定結果は、10,500-10,250calBPである。

【遺物の価値】

- （1）勾玉に似ているが、勾玉は現在まで縄文時代早期での出土例がなく、また本品は欠損して全体形が完全でないので、「勾玉形石製装身品」と仮称する。
- （2）縄文時代の石製装身品の出土例は、古くても縄文時代早期後半で、縄文時代前期～晩期に盛行する。縄文時代の装身品を考えるうえで、貴重な資料。
- （3）出土した層は、アカホヤ火山灰（約7,400年前の火山灰）にバックされた層の下部で、調査では番号を付け記録し、取り上げており、他の時代からの混入等はありません。



②九州初、縄文時代早期（約1万年前）の石偶（長迫遺跡出土）

【内容】

(1) 特徴

- ア 全長 10.0 cm、幅 5.6 cm、厚さ 5.3 cm、重量 295 g、1点。
- イ 全面に敲打痕が見られる。先細りの部分には、くびれが見られる。底面と思われる部分は敲打により、面取りが施されている。
- ウ 石材は砂岩。

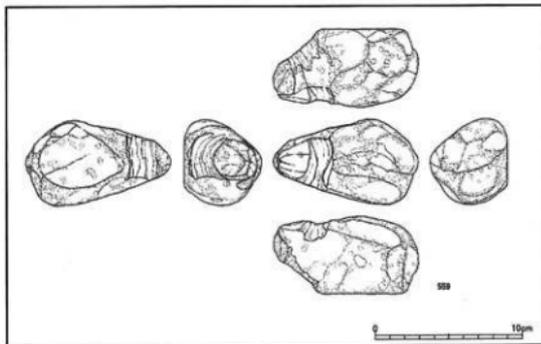
- (2) 吉田式土器に伴って出土。他遺跡の吉田式土器の付着炭化物の年代測定結果は、10,500-10,250calBPである。



撮影 鹿児島県立埋蔵文化財センター

【遺物の価値】

- (1) 縄文時代早期では、全国的にも稀有である。九州に類例はない。
- (2) 底面が敲打により、面取りされていることから、その形状は「据える、座る」を意識しているものと思われる。
- (3) 装身具ではなく象徴物と思われ、縄文時代早期の精神文化を研究するうえで、貴重な資料。「男根」もしくは「人形（トルソー）」という見方もできるが、類例が少ないため、トルソー的な「石偶」と仮称する。
- (4) 出土した層は、アカホヤ火山灰（約7,400年前の火山灰）にバックされた層の下部で、調査では番号を付け記録し取り上げており、他の時代からの混入等はない。



③縄文時代早期（約1万年前）の用途不明の石製品（長迫遺跡出土）

【内容】

(1) 特徴

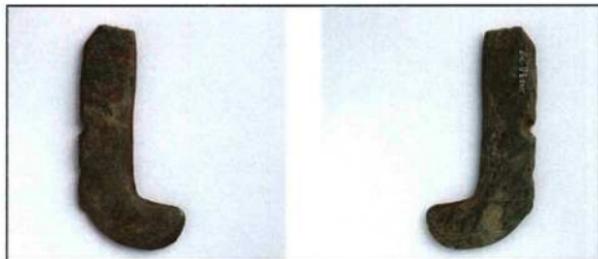
ア 全長8.5cm、幅4.1cm、厚さ0.8cm、重量29.5g、1点。

イ 側面には穿孔痕跡、擦切痕が見られる。

ウ 形状がアルファベットの「J」字形を呈す。

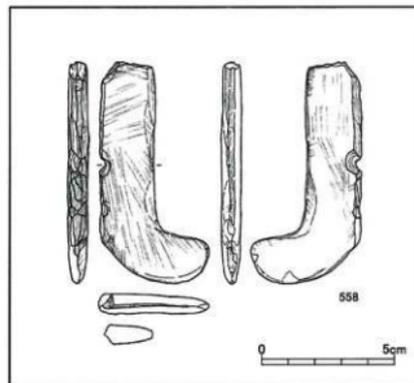
エ 石材は片岩。

- (2) 吉田式土器に伴って出土。他遺跡の吉田式土器の付着炭化物の年代測定結果は、10,500-10,250calBPである。



【遺物の価値】

- (1) 形状から「J字形石製品」と仮称する。この種のものは、これまで中四国から北海道までの縄文文化ではみられないもの。
- (2) 穿孔、擦切痕、その後の研磨など、石製品の製作技術が主証できる貴重な資料である。
- (3) 出土した層は、アカホヤ火山灰（約7,400年前の火山灰）にバックされた層の下部で、調査では番号を付け記録し取り上げており、他の時代からの混入等は、あり得ない。



●実測図作成及び、遺物所見指導者

縄文時代全般について

同志社大学教授 水ノ江和同（みずのえ かずとも）

縄文時代の石製装飾品について

熊本大学准教授 大坪志子（おおつぼ ゆきこ）

南九州及び種子島の縄文文化について

西之表市史編集委員会 先史部会 会長 堂込秀人（どうごめ ひでと）
（前鹿児島県立埋蔵文化財センター所長）

■発掘調査風景

「長迫（ながさこ）遺跡」 西之表市安城川脇



「二石（ふたつし）遺跡」 西之表市安城川脇



長迫遺跡・二石遺跡から出土した 石製品の位置づけ

－ 縄文時代の石製品文化発祥の鍵を握る資料－

南九州は縄文時代早期後葉(約 8,000 年前頃)の石製品が国内では突出して多い地域であるが、それより古い段階(縄文時代早期前葉:約1万年前頃)のものが、国内で初めて種子島からまとまって出土したことは、南九州の特異性・先進性を考える材料となり、いままで実態がわからなかった縄文時代の石製品文化の源流をたどるうえでも貴重な発見となった。